

四字熟語は《和やかで穏やかな表情と思いやりのある優しい話し方》という意味の仏教用語です。この言葉を校訓とした学校で社会福祉を学び、育成会に就職したのが平成5年・・・時の流れは早いものです。働き始めた頃は、あまり意識しなかった【和顔愛語】ですが、経験を重ね、立場が変わるごとに自然と気にかかるようになりました。例えば、柔和な表情で気持ちの良い挨拶をすると、ほっと心が和む・・・そのような環境が良いチームワークを生み、良い仕事に繋がる・・・そんな風に考えています。また笑顔には、人を幸せにするだけでなく、ストレスの解消や病気を癒す力もあります。その効果、なんと作り笑いでも変わらないそうです。

福祉を取り巻く環境は、人手不足や報酬改定等々、とかく厳しい話題が続きますが、こんなときこそ《笑顔》かもしれない。東成育成園には毎日、利用者の皆さんだけでなく、スタッフも含め多くの笑顔が溢れています。作業や行事、なによりの楽しみな給食・・・主体性と意欲を持って取り組める日課を心がけ《今日も楽しかった～♪》という言葉を目にする私たちも一安心。その弾ける表情をみて地域の方々からも『育成園の人は楽しそうやな』と。地域との相互扶助が重要視される昨今、皆さんの笑顔がその礎を築いてくれているように感じています。

たくさんの人に支えられていることへの感謝を忘れず、一人でも多くの方に笑顔と安心をお届けできるよう、職員一同、しっかり汗を流してまいりたいと思います。

港育成園 管理者 松本 源太郎



和

今年度も港育成園管理者を拝命いたしました。

私が選ぶ今年の一文字として「和」を選びました。「和」？それはおもしろいわ(和)！なんて、声が聞かれそうですが・・・」

令和から取ったのではと、他の人も同じ文字を選ぶのではないかと思いつつながら、いくつか原稿を書いていくうちに結局行きついたのが「和」という文字でした。

「和」という言葉は好きな一文字でもあります。私はなぜか昔から聖徳太子という人物像が好きなのですが、十七条憲法にも「和を以て貴しと為す」とい

う条文があります。これは、日本を言い表す言葉としても伝えられてきました。

私自身もいつもこの「和」を目指して、行動しているように思います。議論することがあっても、「和」を目指したものでなければならぬと考えています。相手を打ち負かすとか、論破するとかはどうも性に合いません・・・

さて、私は港育成園に配属となり5年目を迎えることとなりますが、港育成園も私が来てから、少しずつ変わってきました。これまで先人が作り上げてきたものと、私がやってきたこと、そして今の港育成園が目指すものが「調和」する年になればいいなと思います。そして、スタッフからの話を聞きながら、利用者や家族の話を聞きながら、今できることを「調和」させるのが私の役目でもあります。

また、「和」という文字には、「和む」という意味もあります。港育成園は活動の中で少しずつ「和み」を必要としてきました。それが今形になりつつあり和やかな雰囲気を持つことができてきました。そう思えば、「和」は今年に限ったものではないのかもしれませんが、せつかくの機会なので今年は強調してみようと思います。

余談ですが、日本風のことを和風と言います。

いつからか、「和」の文化を大切に思うようになりましたが、最近それを強く思われる出来事に出会い、この「和」という一文字を今回選ぶことにしました。

港第二育成園 管理者 窪田 真一



礎

青葉若葉のさわやかな季節となりました。

今回はいつもの事業所紹介ではなく、趣向を凝らし漢字一文字で、皆様に新年度のご挨拶をするという『お題』を頂きましたので、私は『礎(いしづえ)』という漢字を選びました。『礎』を調べると、物事の基礎となる大切なものという文言が出てきます。事業所運営において『物事の基礎となる大切なもの』とは方針であると思います。

港第二育成園には2つの『礎』があります。1つは「障がいのある人の働きたいを応援する」です。『働く』といっても様々な働き方があります。港第二育成園では3つの働き方を応援します。①一般就労は